

●中医学は病因論から説き起こす！

ふう か たん お 風火痰瘀論

著者：章 真 如(湖北中医学院教授)

訳者：渡辺 賢一

体裁：A 5 判 並製 248頁 定価：本体 3,500 円+ 税(送料 315円)

- 中医学の四大病因を論じる……臨床応用のための徹底解説！
- 四大病因は朱丹溪が提起した病因論。
- 現代の難病・生活習慣病治療の突破口。
- 朱丹溪の研究者・章真如教授が、症例を多数添えてわかりやすく解説する。



[中医臨床文庫 1]

中医学の多彩な内容を
小テーマで解説する。

病因病機学説は、中医学の発展史において牽引車の役割を果たしてきた。

後漢の張仲景は「寒邪」を、金元の劉河間は「火邪」を強調し、明清の温病学派は「温熱」「湿熱」を研究して新しい弁証体系を打ち立てた。病因病機理論は、そのつど中医学を飛躍的に発展させてきた原動力である。

本書で詳述する「風火痰瘀」論は、金元四大家のひとり朱丹溪の提唱した病因論である。これらは古来より「風は百病の長」「怪病に痰瘀多し」と称され、重大病因として深く研究されてきた。本書は、この四大病因について、歴代医家の学説、生理と病理、臨床的特徴、治療原則などを詳細に論じる。

本書著者・章真如氏は、朱丹溪の研究家として有名であり、四大病因を簡明かつ明快に解説している。著者自身の症例が多数付されており、実にわかりやすい解説書である。

ご注文は FAX専用フリーダイヤルで 今すぐにFAX 0120 - 727 - 060

日本語版序文

拙著『風火痰瘀論』は1986年、北京において、人民衛生出版社より出版されました。出版後、全国の中医学界から好評を得たことから、同出版社は本書を日本の出版社に推薦し、日本語版出版の運びとなりました。筆者はこれを光栄に思い、日本語版の出版を心待ちにしていた次第です。

中国医学は日本の医学界と古くから関わりを持っております。いまを遡ること西暦6世紀、中国の漢・唐代を境に、両国の医学界は頻りに往来するようになり、中国医学は徐々に日本に浸透して行きました。唐代の鑑真が扶桑（日本の別称）に渡り医学を伝えたことも、両国間の交流の1つの証といえます。中国医学は日本で「漢方医学」と呼ばれながら、日本の医学の一翼を担ってきたのです。

中国の金元代（1115～1368年）の偉大な医学者・朱丹溪の理論は、15世紀に日本に伝えられ、安土桃山時代（1568～1594年）、江戸時代（1600～1867年）に最盛期を迎えました。なかでも、田代三喜（1465～1537年）に師事して大陸医学を学んだ曲直瀬道三は、医学教育にも力を入れ、丹溪学説の普及に貢献しました。

丹溪学説を貫く中心命題は「風・火・痰・瘀」です。筆者は長年丹溪学説を学び、臨床に取り入れ応用して参りました。本書はその経験の集大成といえます。本書の日本語版出版により、日中の医学界の交流が深まり、丹溪学説がさらに日本で理解され、浸透することを切に願っています。日中両国の友好と学術交流がこれからも永遠に続くことを願い、私の序文といたします。

章 真 如

1997年（丁丑）春月

中国武漢市中医病院にて

2 歴代医家の風論

●『黄帝内经』

「素問」には風に関する論述が非常に多い。その上、とくに「風論」を設け、風の病理作用について詳述している。

『素問』風論篇：

「風の人を傷つるや、あるいは寒熱となり、あるいは熱中となり、あるいは寒中となり、あるいは癰疽となり、あるいは偏枯となり、あるいは風となるなり。その病おのおの異なり、その名も同じからず、あるいはりて五臓六腑に至る。」

『素問』風論篇：

「風は善くめぐりたび変じ、腠理開けばすなわち活然¹⁾としてし、閉じればすなわち熱して悶ゆ。それ寒すれば、すなわち食飲衰え、れ熱すれば、すなわち肌肉消す……」

『素問』風論篇：

「故に風は、百病の長なり、至りてそれ変化し、すなわち他病をなす……」

また「素問」では、「肺風」「心風」「肝風」「脾風」「腎風」「胃風」「風」「諸風」「瘧風」などの風証が紹介されているほか、字例についても及されており、風の役職を避けるよう注意を促している。

第1章 風 証 論

1 風と風証の基本概念

「風」は気圧の分布の不均衡により生じる一種の自然現象である。風には季節による一定の規則性があり、たとえば春は東風が多く、夏は南風が多く、秋は西風が多く、冬は北風が多くなる。また風がどこから吹いて来るかによって、春暖かく、夏熱く、秋涼しく、冬寒いなどの気候の変化が生ずる。

中医学の「風」には2種類の概念がある。1つは病因「六淫」の1つである「風邪」、もう1つは病証の1つ「内風」である。外感風邪（外風）も内風もともに風証を引き起こす病因である。

「天人相应」の学説によると、人間は自然環境の中で様々な気候の影響を受けながら、人体の生理機能を調節し、人体の生、長、化、収、藏などのバランスを保持しているという。たとえば「素問」四氣調神大論に「春

目次の一部

序 論

- 1 風火痰瘀の起源とその病理変化
- 2 風火同氣と風火同病
- 3 痰瘀同源と痰瘀同病
- 4 風火痰瘀の相互転化と臨床症状

第1章 風 証 論

- 1 風と風証の基本概念
- 2 歴代医家の風論
- 3 風証の病因・病機
外感風邪・高熱生風・血虚生風
血熱生風・液燥生風・痰濁生風
久病生風・破傷風入
- 4 風証の臨床症状とその特徴
- 5 風証の治療原則
- 6 臨床でよく見られる風証の弁証論治
傷風・風熱・風燥・風火・風温・風湿
暑風・頭風・喉風・腸風・風瀉
風水・羊癇風・中風・驚風・風疹
破傷風・紫癜風・鶴膝風・麻風
- 7 風について

第2章 火 証 論

- 1 火と火証の基本概念
- 2 歴代医家の火論
- 3 火の生理的はたらき
- 4 火の病理学的特徴
- 5 火証の治療原則
- 6 五臓(五志)の火の臨床症状と弁証論治
心火・肝火・脾(胃)火・肺火・腎火
- 7 陽火と陰火の臨床症状と弁証論治
- 8 臨床でよく見られる火証の弁証論治
頭火・火眼・火牙・寒包火・火咳
火喘・火瀉・痰火・火中・火丹
流火・火毒
- 9 火について

第3章 痰 証 論

- 1 痰と痰証の基本概念
- 2 歴代医家の痰論
- 3 痰の形成と病因・病機
- 4 痰証の臨床症状とその特徴
- 5 痰証の治療原則
- 6 臨床でよく見られる痰証の弁証論治
痰熱擾心・痰迷心竅・痰濁心痛
痰厥頭痛・痰逆眩暈・痰擾不寐
痰阻經絡・胃伏痰飲・痰飲泄瀉
痰癰・痰核・痰毒・流痰
- 7 痰について
痰と飲の相違点と特徴
痰と飲の症状の鑑別
痰と現代医学

第4章 瘀 証 論

- 1 瘀と瘀証の基本概念
- 2 歴代医家の瘀論
- 3 瘀血の形成と病因・病機
- 4 瘀証の臨床症状とその特徴
疼痛・腫脹・寒熱・発黄・出血
煩渴・二便・心悸怔忡
意識、精神障害・脈、舌
- 5 瘀証の治療原則
温經化瘀・理氣化瘀・清熱化瘀
扶正化瘀・去風化瘀・滋陰化瘀
- 6 臨床でよく見られる瘀証の弁証論治
瘀血頭痛・瘀血心痛・瘀血痺痛
中風瘀阻經絡・瘀血咳喘・瘀血不眠
瘀血発熱・瘀血汗証・瘀血癰疾
瘀血淋濁・瘀血遺精および陽萎
瘀血經乱・頭部外傷による瘀血
瘀血瘡塊
- 7 瘀証について

付録：関連方剤の索引
索引